

プレスリリース

2021(令和3)年10月14日
公益財団法人福岡アジア都市研究所

コロナ・インパクト・フクオカ 2020年コロナ禍影響度チャート集

福岡アジア都市研究所(URC)は、新型コロナウイルス感染拡大が社会に多大な影響を与えた2020年のデータを収集し、「コロナ・インパクト・フクオカ」としてまとめました。

コロナ禍における福岡市民の意識や行動の変化、消費行動の変化などを、感染状況の推移と対比して可視化しています。

1. 構成・ポイント

1) 家計調査編

総務省家計調査の衣・食・住の月別消費額を2020年と過去5年間平均値と比較

- ✓ 在宅・巣ごもり関連の消費の増加と、外出・移動関連の消費の減少で、二極化増加:「カップ麺」「ビール」「パソコン」「ゲームソフト等」「インターネット接続料」等
減少:「鉄道運賃」「航空運賃」「外食全般」「文化施設入場料」「履物類」「口紅」等

2) Google Trends/コミュニティモビリティレポート編

Googleの検索関心度合い(仕事、生活、外出など)を2020年と2019年で比較

- ✓ 感染状況や行政施策に対応して市民の関心が大きく変動
「マスク」「自粛」「申請」「マイナンバーカード」「福岡市_情報」等
- ✓ 在宅・巣ごもり関連のキーワードと、外出・イベント関連のキーワードで対照的な動き
関心度上昇:「Zoom」「テレワーク」「ウーバー」「レシピ」「Amazon」「Switch」等
関心度下降:「旅行」「航空券」「新幹線」「コンサート」「結婚式」「忘年会」等

2. データ掲載場所

URCのWEBサイトにPDFファイルを掲載しています。

<http://urc.or.jp/corona-impact>

3. お問い合わせ

公益財団法人福岡アジア都市研究所

〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-1 福岡市役所北別館6階

TEL: 092-733-5686 Mail: info@urc.or.jp

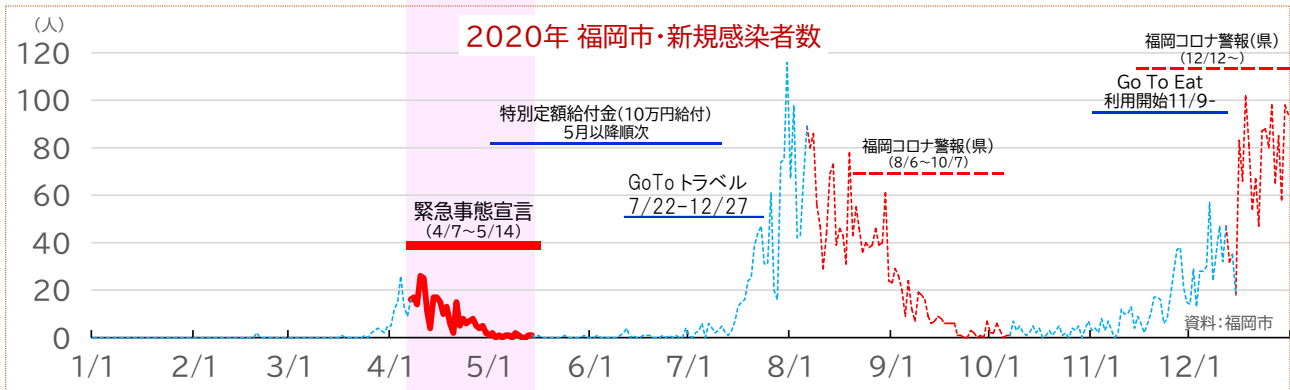
担当: ^{かけはし} 梯 研究員: 畠山、山田

コロナ・インパクト・フクオカ

<http://urc.or.jp/corona-impact>

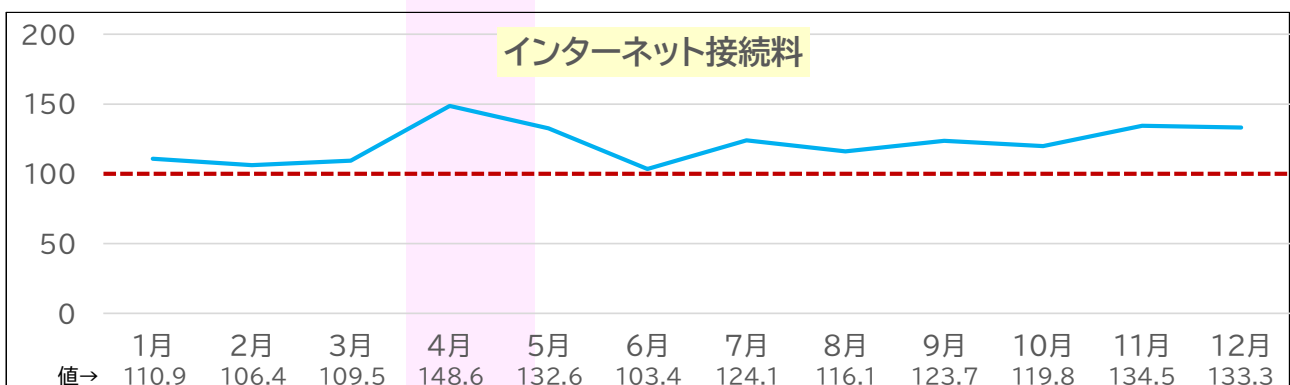
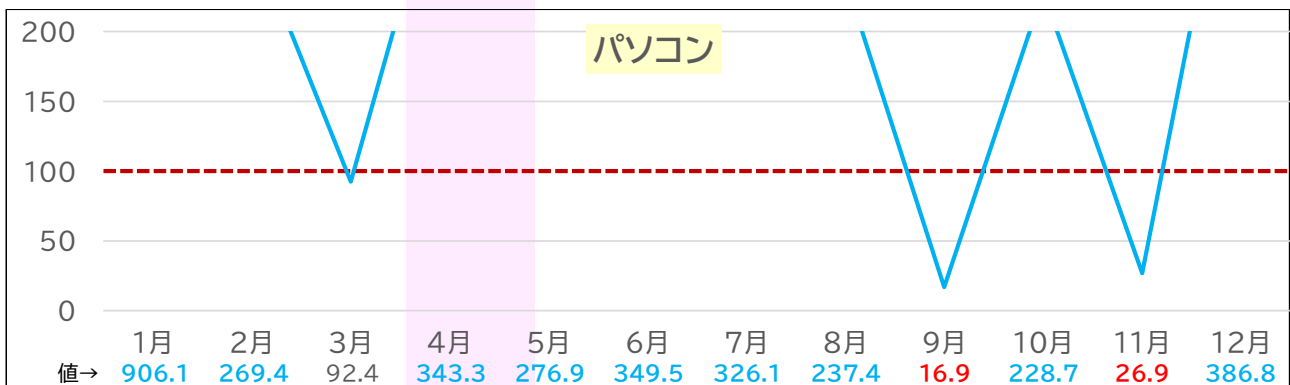
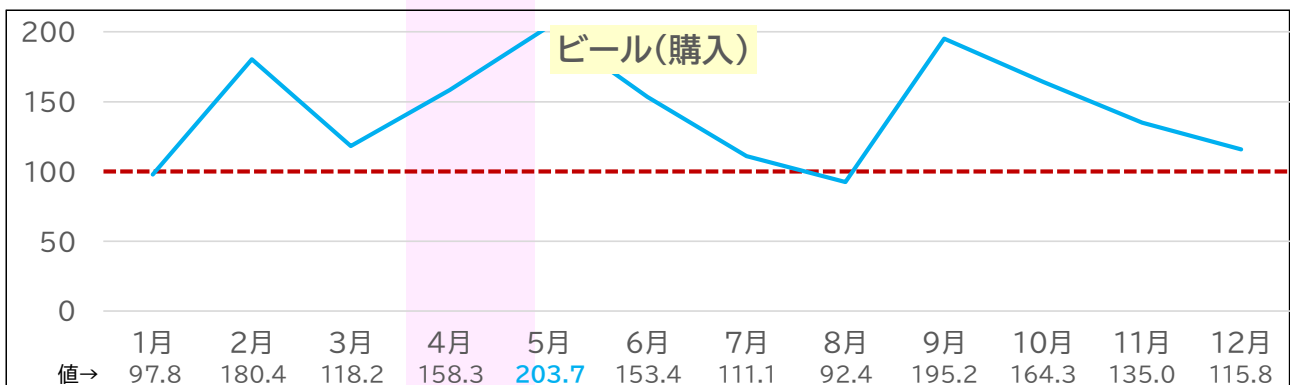
家計調査 編

一部抜粋



2015-2019年5カ年平均を100とした2020年の値

値の赤字は2019年比50未満(半分未満)、青字は同200以上(2倍以上)



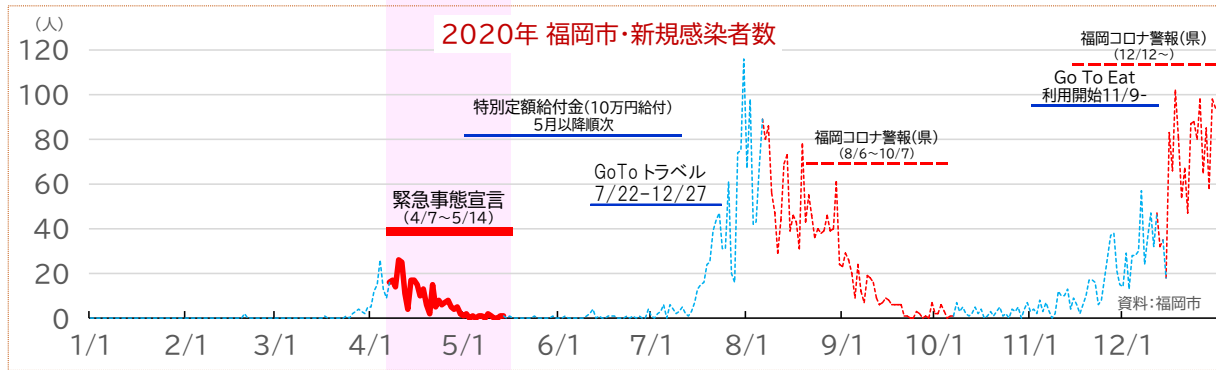
資料:家計調査(総務省)

コロナ・インパクト・フクオカ

Google Trends 編

<http://urc.or.jp/corona-impact>

一部抜粋



2019年1月1日~2020年12月31日(2年間)の検索回数最高値を100とした値(福岡県)

